

平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ニギス

学名 *Glossanodon semifasciatus*

系群名 太平洋系群

担当水研 中央水産研究所



生物学的特性

寿命: 5歳

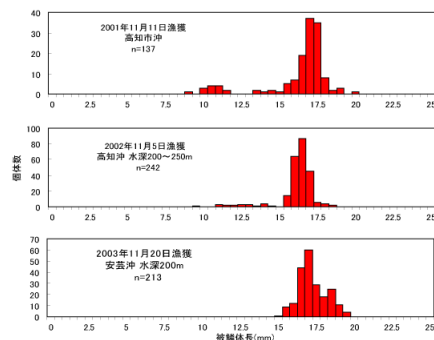
成熟開始年齢: 2歳

産卵期・産卵場: 春季が主な産卵期だが、秋季にも産卵、水深250m前後の海底付近で産卵

索餌期・索餌場: 春～秋季(5～11月)、伊豆半島以西～九州太平洋沿岸の水深100～350mの海域、成長に伴い沿岸からより沖合の生息域に移動

食性: 幼魚期はコペポダなどを主に食べるが、成長に伴いオキアミなどのより大型の浮遊性甲殻類を食べる

捕食者: 中・大型の底魚類



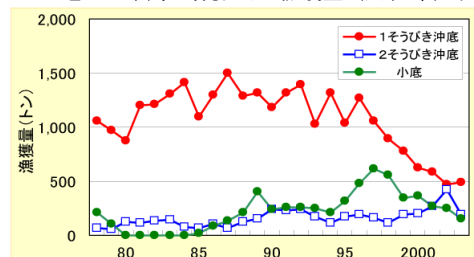
高知県測量漁協に水揚げされた1そうびき沖底漁獲物の体長組成の経年変化

漁業の特徴

太平洋側では伊豆半島以西～九州太平洋側の水深200～250mの海底付近で、主に1そうびき沖底びき網(沖底)により漁獲される。その他、2そうびき沖底、小型底びき網(小底)によっても漁獲される。1そうびき沖底の着業隻数が漸減傾向にあり、当該漁業種類による漁獲割合は減少傾向にある。

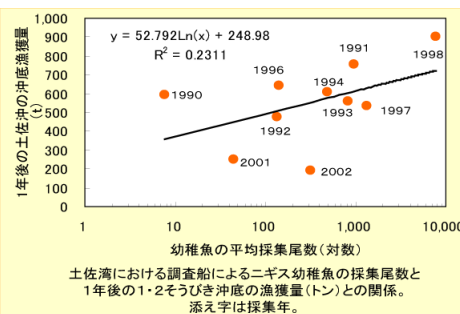
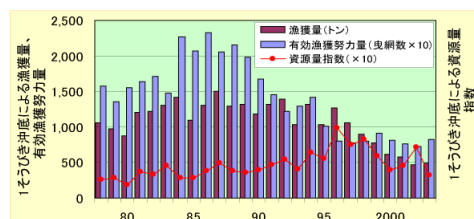
漁獲の動向

漁獲量は1980年代後半から増加傾向となり1992年には1,892トンに達した。その後、やや減少したが1996年には1,936トンと過去24年間(1980～2003年)で最高の漁獲量となった。しかし、その後は減少に転じ、2003年には833トンと過去24年間で最も少ない漁獲量を記録し、低水準、減少傾向となっている。



資源評価法

総漁獲量と本種を主要な漁獲対象とする1そうびき沖底の資源動向の指標及び、調査船による幼稚魚調査の結果をもとに資源評価を行った。1そうびき沖底の主要な漁場である土佐沖と熊野灘での漁獲量、有効漁獲努力量及び資源量指数の経年的変化傾向から資源の状態を評価するとともに、土佐湾における調査船調査による6～7月の幼稚魚の分布量指数と翌年の土佐湾における1・2そうびき沖底による漁獲量の相関関係から2005年の漁獲量の動向予測を行った。

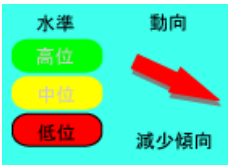


資源状態

土佐沖における1そうびき沖底の資源量指数は1980年代半ばをピークに減少傾向にあり、1990年代半ばの漁獲量の増大は、努力量の過大な投下によるものと考えられ、1997年以降の漁獲量の急減は土佐沖の資源を壊滅的な状況に追い込んだためと考えられる。一方、熊野灘における1そうびき沖底の資源量指数は1980年代以降ほぼ横ばい状態にある。

管理方策

主力漁業である1そうびき沖底の漁獲量が減少傾向にあることから、漁獲を抑制して資源の減少傾向に歯止めをかけることを目標とする。現在、利用できる情報は漁獲量だけであることから減少傾向にあった過去3年間(2001～2003年)の平均漁獲量の8割を2005年のABClimitとする。2004年6～7月に行った調査船による幼稚魚調査の結果によると、分布量指数は2003年同期に比べ高い水準(約8倍)にあるものの、ほぼ同様の分布量指数を示した2002年の翌年(2003年)の漁獲量は、前年に比べ大幅に減少した。これらのことから、2005年漁期の漁獲量が回復する可能性は低いと考えられる。そこで、ABCTargetはABClimitに安全率0.8を乗じて算定した。



	2005年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	826トン	0.8Cave3-yr	-	-
ABCTarget	661トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 総漁獲量は1997年以降の減少傾向が顕著で、2003年には過去24年間(1980～2003年)で最低となった

管理方策のまとめ

- 漁獲を抑制して資源の減少傾向に歯止めをかける
- 資源量の推定のため年齢・成長関係を明らかにするとともに、漁獲物の体長組成等の蓄積を図りコホート解析の導入を目指す
- 資源予測については、調査船による幼稚魚の分布量指数等のデータを蓄積して、推定精度の向上を図る

資源評価は毎年更新されます。